

宇都宮市における地区間の親密度に関する研究（17年度）の概要

1 研究のねらい

- ・本市の各分野における計画策定や事業実施に際しては、市内を複数の地区に区分して、身近な地域での行政の展開をはかる例も多くみられる。しかしながら、この地域区分やエリア設定に関しては明確な手法が確立されておらず、基礎調査の段階での客観的な手法を検討する必要がある。
- ・そこで、「(仮称)宇都宮市地区行政推進計画」の策定支援を実施するに際して、政策形成における地域区分・エリア設定の考え方や分析手法を整理するとともに、地区間の結節性、地区特性の類似性という2つの親密度に関する視点から、実際の分析を行いその結果を提示する。

2 経過

- ・研究期間 1年間（17年度）
- ・研究方式 専門研究嘱託員による専門研究，地区行政課に対する政策形成支援
- ・研究の流れ 他市および府県における地域区分の手法の情報収集（H17.5～10）
府県における「市町村合併推進要綱」に関する情報収集
「大都市制度に関する調査研究」における堺市・浜松市調査
地域の捉え方，地域区分の考え方と分析手法の整理（H17.10～H18.1）
地区行政課に対する分析手法の解説（H17.11.18）
分析データの入手と整理（H17.10～12）
計量的手法を用いた分析の実施と結果の考察（H17.11～H18.2）
「第3回地区行政推進委員会」（H18.1.23）等における分析結果の提示

3 研究結果

地域区分・エリア設定における視点の提示

- ・地域の捉え方には、等質地域，機能地域，形式地域，実質地域，認知地域など，さまざまな概念が存在する。総合的な地域区分・エリア設定を行う場合には，これらの複数の地域概念を組み合わせながら，地域間の結びつき，地域特性の類似度などを念頭に入れる必要がある。

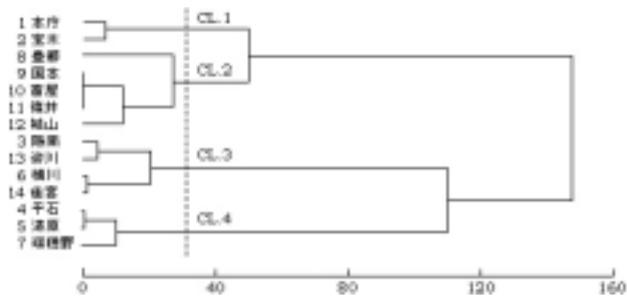
地域区分・エリア設定の計量的手法

- ・具体的な地域区分の手法に際しては，各府県が『市町村合併推進要綱』の作成に用いたクラスター分析の手法が有用である。この手法は，対象間の関係が数値で表されているときに，似た関係にあるものを統計的にグループ化するもので，地域間の結びつき，地域特性の類似度それぞれについて扱うことができる。

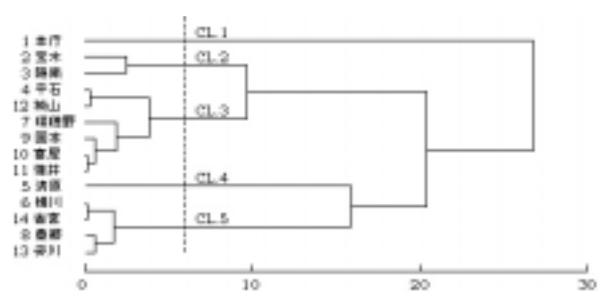
分析結果に基づくエリア区分・地区類型の提示

- ・地区間の結びつきについては，市町村の下位の単位で得られるフローデータがほぼ存在しないため，今回は限定的ではあるが，市政諸分野における地域区分や官公庁所管区域など9指標を用いた。地区間の類似性については，人口，世帯属性，就業構造，産業など27指標を用いて分析を実施した。具体的な分析結果の一例は以下の通りである。

ア 結節性に基づく分析のデンドログラム



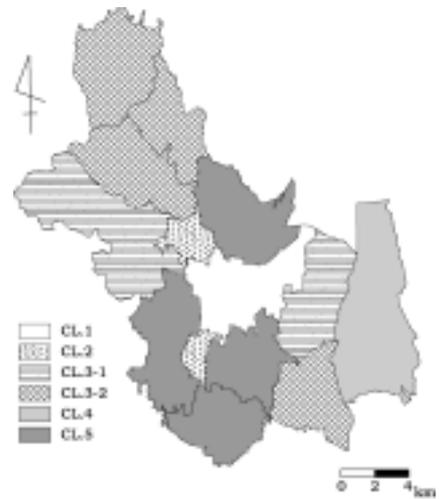
イ 類似性に基づく分析のデンドログラム



ア 地区間の結節度に基づくエリア区分



イ 地区間の類似性に基づく地区類型



4 おわりに

- ・ 今回の分析により、従来は系統だった手法を用いずに行われることも多かった行政上のエリア設定を、統計的に処理することができ、政策形成の基礎調査段階における客観性の確保につながったと思われる。今後は、同様の手法を他分野における計画策定などに応用すべく、より精緻でかつ簡易な分析手法についても検討していきたいと考えている。